

H29第3回中央区まちづくり懇話会実施報告書

日 時 平成29年11月15日(水) 15:30～16:30

場 所 熊本市役所議会棟2階 議運・理事室

参加者 懇話会委員16名

議 事

- (1) 第2回熊本市中央区まちづくり懇話会報告
- (2) 平成30年度中央区まちづくり事業について
- (3) 平成30年度中央区まちづくり事業に関する
アイデア提案について



意見交換会の様子



議事(1) 第2回熊本市中央区まちづくり懇話会報告

中央区総務企画課長から

【資料1】「H29第2回中央区まちづくり懇話会実施報告」を基に報告。

第2回懇話会では、第1回のテーマ「中央区の特徴や課題についてのアプローチ」にて出された意見の中から、4つのキーワードに絞りグループに分かれて意見交換を行った。

4つのキーワード

「担い手の育成」

「電子媒体による情報共有」

「マンション世帯の自治会活動への参加」

「若者の地域参画」



議事(2) 平成30年度中央区まちづくり事業について

中央区総務企画課長から【資料2】「平成30年度中央区まちづくり事業」を基に説明。

◆中央区のまちづくりを進めるうえでの基本的な考え方

⇒「住民が、ゆるやかにつながりあい、楽しみながら、生きがいを持って、めざすくらしのあり方をみずから考え、そのためになにが必要か、なにをすべきか、検討し、選択し、行動できる、真の自主自立のまちを目指す。」

◆行政の担う役割

⇒ ①地域が主体となって進める取り組みの支援

②行政が担うべき、地域課題の解決および、めざすまちづくりへ向けた取り組み

※突発的な課題や地域ニーズへの対応、新たな展開へつながる調査研究やモデル事業

◆まちづくりの方向性

①地域活動の負担軽減 ⇒ 参加しやすい、身近な、魅力ある、ためになる、楽しい地域活動

②生きがいとしての地域活動 ⇒ 人生の楽しみ、生活の潤い、つながりが心地よい地域活動

③おたがいさまでささえあう地域づくり ⇒ 地域におけるゆるやかな役割を自覚し、できる範囲でお互いに支いあえる地域づくり

◆平成30年度の主な取り組み

①地域活動の負担軽減 ⇒ 地域リーダー応援事業、SNSを活用した情報発信事業

②生きがいとしての地域活動 ⇒ セカンドライフ応援事業、校区の魅力発見発信事業

③おたがいさまでささえあう地域づくり ⇒ 中央区地域防災支援事業、お互いさまのまちづくり研修会、マンションコミュニティ形成支援事業

※持続可能な地域となるために ⇒ 大学連携事業

※地域が主体となって進める取り組みの支援

※新たな展開へつながる調査研究やモデル事業

議事(2) 平成30年度中央区まちづくり事業について

《委員意見・質問》

①地域活動の負担軽減

・地域リーダー応援事業

⇒質問: 講習会をどのような形で開催するのか?

⇒回答(まちづくりセンター): 具体的なプランは固まっていない。地域担当職員が地域の方々と話す中で、地域活動に携わっていらっしゃる方の中には、「表計算ソフトの使い方がわからない。」「会議の運営がうまくいかない。」というような声を聞いている。そのような問題の解消をしていくことも地域支援の一つの方法かと考えている。

②生きがいとしての地域活動

・セカンドライフ応援事業

⇒意見: 自身が別の団体でセカンドライフ応援をやっている。自分の人生の棚卸しをして、仕事の中で培ったスキルなどが、地域に対して何か使えないかということを検討していくという内容。使えるところがあればお役に立ちたい。



議事(2) 平成30年度中央区まちづくり事業について

③おたがいさまでささえあう地域づくり

・中央区地域防災支援事業

⇒意見：現在行われている防災講座に参加した。非常に興味深くて面白い。テーマが防災と歴史。江戸時代から地震に対する備えがあるとか、有識者の方の話が聞けて良かった。今後、テーマを変えたり、同じ内容でも回数を重ねて、人数をもっとたくさん受け入れていただくと、エキスパートが育っていくのではないかと感じている。

⇒回答(総務企画課)：委員から紹介いただいた「そなえる防災講座」については、震災を受け、今年度から取り組んでいる講座。9月から毎月一回のペースで講座を開いている。これまで2回開催し、どちらもほぼ定員いっぱいの参加があった。防災に対する関心の高さが感じられた。アンケート結果も非常に好評。来年度も引き続き行い、より内容の濃いものにしたい。色々アドバイスをいただきたい。

・お互いさまのまちづくり研修会

⇒意見：地域包括ケアシステムの構築はすでに言われており、私たち福祉職ではかなり浸透しているが、一般の方にとってはどのように思われているか疑問。解りやすい説明が必要。研修実施の際のテーマは？具体的にどのように進めるのか？

⇒回答(保健福祉部長)：ご指摘のとおり地域包括ケアシステムは、一般の方にはまだまだ馴染みのない言葉であると思っている。言葉を覚えて頂くというようなことも含めて分かりやすい研修会にしたい。熊本市は地震を経験しており、震災からの復興が、今回の研修の重要な一つの視点ではないかと思っている。その辺を含めてテーマを整理しながら研修の実施に取り組みたい。

議事(2) 平成30年度中央区まちづくり事業について

③おたがいさまでささえあう地域づくり

マンション・コミュニティ形成支援事業

⇒質問:現状分析と課題の整理とあるが、今の時点でどんな風に具体的に進めていくのかわかっている範囲で教えていただきたい。

⇒回答(まちづくりセンター):前回の懇話会でも非常に熱心な議論が交わされたテーマ。また、地域担当職員も問題意識を強く持っている。中央区は特にマンションの割合が他の区より多いという特徴がある。中央区としてはこの問題を避けては通れないと感じている。実際にマンションに住んでいる方から、こういった形で声を聞くことが出来るのか、手探り状態な部分もある。31年度の事業実施に向けて、来年度は地域はもとよりマンション組合・不動産会社等の企業へも足を運び、ニーズがこういったところにあるのかという事を分析し事業化に取組みたいと考えている。

⇒質問:企業とも一緒に進めるということだが、どこか参考になるような先進都市があるのか。

⇒回答(まちづくりセンター):先進都市があるという情報はキャッチしていない。ただ多くの都市でもそのような課題がある。例えば神戸市の東灘区は、マンションの多い地域。そういった所でのいろいろな取り組みを参考にしながら、マンション・コミュニティの活性化に向けてこういった支援が出来るかということを考えていきたい。

議事(2) 平成30年度中央区まちづくり事業について

※持続可能な地域となるために

・大学連携事業

⇒ 質問: 大学との連携というところで、様々な枠組みを活用し連携して取り組むとあるが、具体的に今まで行った活動や、これから行っていくという活動はあるか。

⇒ 回答(まちづくりセンター): 具体例としては、熊本大学との「COC+」※事業に基づく産学官連携した取組みが挙げられる。

内容としては、地域担当職員が、特定の地域課題をテーマとして設定し、地元企業の知見を得ながら、学生が解決策を検討するというもので、地域人材の育成、さらには新たな視点による地域課題の解決を図るものである。

今後も、高等教育機関の集積という中央区の特性を活かし、熊本大学はもとより各大学との連携についても、「COC+」はじめ、様々な枠組みの中で展開を図ってまいりたい。

※「COC+」とは

文部科学省が、平成27年度から実施している、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業。

熊本においては、熊本大学はじめ県内の8高等教育機関が、県、市および経済界と連携し、「“オール熊本”で取り組む熊本産業創生と雇用創出のための教育プログラム」と題し、熊本県内の産業振興、雇用拡大、学卒者の地元定着率増を目指し、地域が必要とする人材を養成するための教育カリキュラムの構築・推進に取り組んでいる。

議事(3) 中央区まちづくり事業アイデア提案について

中央区総務企画課から、今年度中央区まちづくり事業アイデア提案募集に応募のあった2件の提案事業について【資料3】平成30年度中央区まちづくり事業アイデア提案一覧を基に説明。

① 城下町(新町・古町)の伝統文化の継承 五節供の会

新町・古町のまち歩きをし、日本の文化・地域の文化を知り体感する。城下町熊本でしか味わうことのできない体験をすることで、中央区の魅力を見出す。

《委員意見》

- ・以前、新町、古町のまち歩きを体験したが、熊本市に住んでいる者でもとても面白く、もっと人が訪れるようにしたいと思った。
- ・以前、鹿児島に住んでいた。鹿児島に駅ビルができ天文館(鹿児島の繁華街)がとてもさびれた。熊本市にも駅ビルができると聞き、下通り、上通りが天文館の二の舞になるのではないかと心配している。熊本駅から通町まで離れているので、その間に魅力ある町をつくっておかないと、人の流れが変わり鹿児島のようになるのではと不安に思う。新町・古町の伝統あるまち並み、まち歩きのボランティアなどの案内ができる人たちを募り、観光客等に知っていただかないと、駅ビルができたら、通町に人が流れてこないのではと思う。
- ・校区の縛りではなく、区全体として捉え、それぞれ活動をやっている団体、NPOも含め連携していく必要がある。

議事(3) 中央区まちづくり事業アイデア提案について

- ② ウェルカム冊子の作成 くまもと転入ママの会くまてん
中央区へ転入してきたママを対象としたウェルカム冊子を作成

《委員意見》

・東京の国立市ではまちづくり事業で空家や商店を活用してお母さん達が気軽に入れるカフェスペースを作っている。サロンのようなもので、そこで大きな町のマップをつくり、自由におしゃべりに来たお母さん達が、自分の住んでいるところの良いこと、悪いところ、(チカンが出たなど)ハザードマップ的なものをその地図に付箋で貼って、そこに集まる人が、情報誌にはない情報を得ている。転入ママが不安な中、冊子をもらうだけでは不安は解消されない。隣近所の顔が見える、同じママ友がいる、幼稚園だけじゃない自分の住んでいるところでも顔の見えることで、この転入ママの会も、もっと育つ団体になるのではないか。そんなことで行政はサポートをしていったらいいのではないか。

《まちづくり事業の提案にかかる協議結果の報告》

- ①「城下町の伝統文化の継承」⇒30年度の実施は見送り、地域との連携の方向性を探ることを要望する。
平成25年発足した懇話会で、校区代表の委員が「まち歩き」「カルタ」のアイデアを出し、中央区全体に広がっていった模範事例がある。個人ではなく、地域と連携をしながらの方向性を探っていただきたい。
- ②「ウェルカム冊子の作成」⇒実施を推薦する。
今後の活動を広げていけるよう事務局をサポートしていただきたい。

中央区長からのメッセージ

地域の皆さんが一生懸命されている色々な活動を支援していくことを、まちづくりのこれからの方向性と考えている。その中には、予算を伴うもの、マンパワーで対応するものがある。今年度、地域担当職員が配置され、地域に出向き様々な活動のご支援をさせていただいている。地域の皆さんからは、「相談相手ができた」「活動に対してのアドバイスが受けられた」などの好意的なご意見をいただいている。

市民の皆さんに一番身近な区役所が、地域の皆さんと一緒にあって、寄り添いながら活動し、支えあいながら中央区を盛り上げていくことが大切と考えている。

新年、第4回まちづくり懇話会ではそのような事業の報告をさせていただきたいと考えている。

